

研究の背景・目的

留萌流域の人工林はトドマツが大半を占めており、今後利用期を迎え、供給量の増加や大径材の出材比率の上昇が予想されているため、適切な資源利用の取組が必要である。また、大径材に対応できる製材工場が少ないほか、留萌流域のトドマツ人工林は、あて、ぬれ等の欠点が多いとされている。このことから、トドマツ素材の利用状況などを調査し、今後の利用拡大に向けた方策を検討した。

研究の内容・成果

留萌産トドマツの流通の実態を知るため、上川、留萌、空知、宗谷地区の製材工場30社にアンケート調査を実施した。なお、アンケートの提出があったのは30社中25社で回答割合は83%となっている。

① トドマツ原木の受入径級について

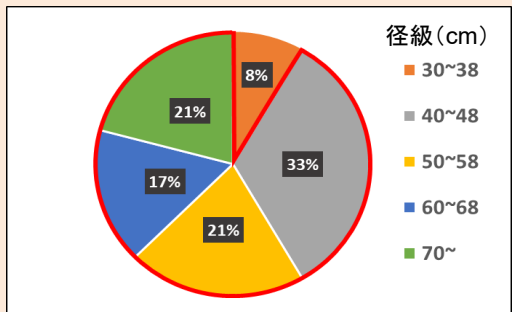


図1. トドマツ原木の受入可能な最大径級

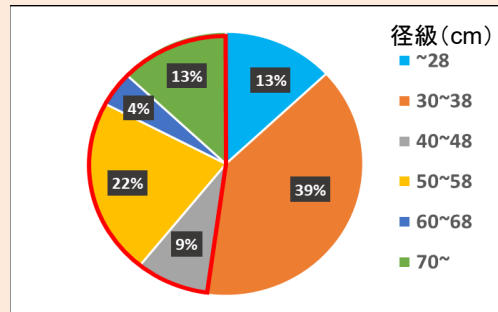


図2. トドマツ原木の受入希望上限径級

- 図1の結果から、トドマツ原木の**受入可能な最大径級が40cm以上**と回答した製材工場が**9割以上** →ほとんどの製材工場で大径材に対応可能
- 図2の結果から、トドマツ原木の**受入希望上限径級が40cm以上**と回答した製材工場が**過半数を下回る** →大径材に対応可能でも大径材を希望しない製材工場が多い

② 留萌産トドマツの受入条件について

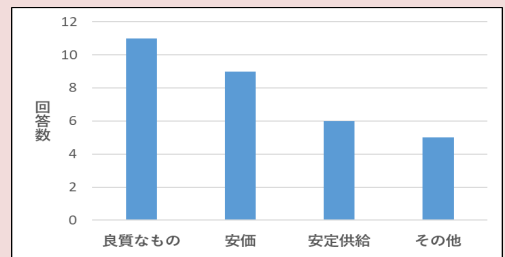


図3. 留萌産トドマツを受け入れる条件 (複数回答あり)

- 受入条件1位・・・「良質なもの」
→品質を重視する製材工場が多い
- 受入条件2位・・・「安価」
→価格を重視する製材工場が多いが、留萌流域内の製材工場の少なさから運搬費用がかかる
- 受入条件3位・・・「安定供給」
→品質や価格より優先順位は低い
が安定供給も求められている



現状の課題

- **大径材の利用**
・地域の齢級構成から供給量の増大
・大径材を利用可能な工場は多いが、大径材を希望しない工場が大半を占める
- **安定供給**
・1年を通して時期的な偏りがなく安定した供給が必要
- **品質・価格**
・近郊に製材工場が少なく運搬経費がかかる
・あて等欠点が発生しやすい地域特性 (季節風・急峻な地形)

今後の展開

- **大径材の販路拡大の取組を検討**
地域で大径材の利用可能な用途等を聞き取りし把握
➡ 利用する用途に適した採材仕様や販売方法を検討
- **安定した供給量の確保**
安定供給システム販売を活用することにより
➡ 1年を通して安定した供給量を確保
- **留萌港の活用を検討**
他地域で需要が多い仕様の採材をすることにより
道外移出・海外輸出を拡大
➡ 運搬距離が短くなり運搬経費の削減
使用用途 (合板等) により欠点があっても受入可能